

『第二回野村胡堂文学賞』授賞式

2014/10/30 記

秋晴れの好天に恵まれた10月30日に「第二回野村胡堂文学賞」の授賞式および祝賀会が執り行われた。

第二回目となる今回の授賞式は、日本作家クラブの初代会長である野村胡堂先生の代表作であります銭形平次とも縁の深い千代田区「神田明神」で開催、授賞式前に神田明神御祭神に授賞式のご報告を行い「銭形平次の碑」前にて記念撮影、その後明神会館・長生殿竹の間にて開会しました。



授賞式会場「明神会館」



記念撮影「神田明神」境内



「銭形平次の碑」

授賞式は、元テレビ朝日ニュースキャスターの高井正憲氏の司会で、当クラブ清水晃事務局長の開会の辞によりスタート。



司会：高井正憲氏



開会の辞：清水晃事務局長



開会の挨拶：中村信也理事長

授賞式では、野村胡堂文学賞に塚本青史先生の「サテライト三国志・上下巻」、特別賞は俳優でもある高橋秀樹先生の「高橋秀樹のおもしろ日本史」の二作品が表彰されました。

「サテライト三国志」は、日本でも老若を問わず人気の高い三国志を題材に、普段主人公扱いされている魏・蜀・呉の英雄たちの周辺で活躍した脇役たちに主たる焦点を当て描かれた作品です。歴史書から知識を吸収するだけでなく、毎年中国古史愛好家を募り訪中を繰り返して来られた塚本先生の独自の視点は、読者を引きつける魅力と新たな発見に満ちており、今回の受賞となっています。

「高橋秀樹のおもしろ日本史」は、俳優としての知名度を前面に出したものと見られそうですが、これまで数々の歴史上の人物を演じてきた高橋先生の視点は、それらの人物になりきり、当時の彼らの考えと意思を感じとってきた同氏ならではのものであり、自他ともに認める歴史マニアとしての知識と役を演じる上での実地検証と経験を元に、多くの歴史家たちでは入り込めなかった独自の作品になっている点が、今回の特別賞受賞の大きな要因となっています。



選評：中村信也理事長



表彰：塚本青史先生



表彰：高橋秀樹先生



副賞お渡し：野村晴一先生



副賞お渡し：高田基夫先生



受賞者と令夫人

日本作家クラブの役員たちは「お祭り騒ぎ」を大事にする当クラブの主義を表した半被を着用、開会の挨拶と選評を述べた当クラブの中村信也理事長を始めとして、式辞の中にも各々ユーモアを交えた朗らかな雰囲気を醸し出していました。

例えば、野村胡堂文学賞を受賞した塚本先生は、受賞の言葉の冒頭において「簡単に終わりにします」とゆうやいなや「(この恩は) 次の作品で返します！」と本当に簡潔なご挨拶。参加者の笑いを誘っておられました。

そうした雰囲気の中、いつもと違う馴染みの薄い分野の式典に、始めのうち緊張のお面持ちであった高橋秀樹先生も、ご自身の挨拶の頃には頬も緩みテレビのバラエティ番組などで見せておられる笑顔になられ、受賞については「元々私は演じる側の人間なので、文学で賞を貰うとなると面映ゆい」とご挨拶、照れた表情を見せておられましたが、最後は来年の大河ドラマで井伊直弼を演じることを発表されて会場を盛り上げて頂きました。



住川碧先生と受賞者



第一回受賞者：小中陽太郎先生



三田誠広先生



高橋伸幸先生



小林秀明先生



閉会の辞：空土久専任理事

受賞者のお言葉を頂いた後、野村胡堂先生のお孫さんにあられる住川碧先生、第一回文学賞に輝いた小中陽太郎先生、芥川賞作家の三田誠広先生、高橋英樹先生の作品を世に出す契機となった雑誌「歴史人」副編集長でもある KK ベストセラーズ副社長の高橋伸幸先生、前迎賓館長の小林秀明先生がお祝辞を述べられ、当クラブの空土久専任理事による閉会の辞で第一部となる授賞式は終了した。